

大川子ども&内科クリニック INFORMATION

感染症 だより

8月は前月に引き続いて、手足口病・ヘルパンギーナが流行しましたが、幼稚園の夏休みとともに、流行は下火となってきました。9月の新学期とともに再び増加しております。9月から10月の流行の特徴は大流行が無いかわりに、幼稚園や保育園毎の小流行がありました。溶連菌感染症の復活、おたふくかぜ、手足口病が小流行しました。10月になって風疹の方が2名いらっしゃいました。

さて、そろそろインフルエンザの手節に突入します。読売新聞には10月13日に立川市で流行が始まり、小学校の休校が伝えられましたが確認されておりません。OCFCでも可能性がある患者さんを毎日1~2名ずつスクリーニングとしてインフルエンザ検査を行なって10月末に陽性者がいましたが、現在確認中です。検査でインフルエンザAと診断できればシンメトリンという抗ウイルス剤を使用して早期に治療することができます。また今シーズン中には新たな抗ウイルス剤が認可されるという情報もあります。ここで簡単にインフルエンザの特徴を説明することにします。

インフルエンザに接触後(多くは患者さんからの飛沫感染ですが、第1号の患者さんはどうして発症するのでしょうか。)24~48時間で発症します。発症時の症状はのどの違和感や痛み、咳・鼻汁などです。半日から1日後、体温が上昇して発熱となります。同時に頭痛、倦怠感、悪寒、嘔気、手・足の筋肉や骨などの関節が痛みます。

熱はいったん下がって再び発熱する2峰性となり、このとき乳幼児やお年よりは肺炎や脳炎・脳症を合併することがあります。ひどい状態は3~5日間続き多くの人は回復に向います。

インフルエンザワクチンは発症を防ぐ力は弱いのですが、肺炎や脳炎などの重症化を防ぎ、さらに症状を軽くすることも可能です。発症を防ぐ力が弱いのでインフルエンザワクチンは無効であると考える人が増えたときもありました。ここ数年間インフルエンザで死亡する方が増加して現在その価値が見直されてきています。OCFCでは9月27日よりインフルエンザワクチンの接種を開始いたしました。一部ではワクチンの効果は3ヶ月だから早期に接種したら無駄になると考えている方もいらっしゃいますが、この3ヶ月有効説に学問的な裏づけが無く、流行する以前に接種しなければ意味が無いことより早期接種に踏み切っております。

OCFCではワクチン接種時の痛みを軽減するために注射器としてマイジェクターを採用しています。

インフルエンザワクチン接種対象者は①65歳以上の方、②長期療養施設入所者、③喘息・高血圧等慢性の肺・心血管疾患の方、④糖尿病・高脂血症・腎疾患・血液疾患の方、⑤アスピリン療法を受けている方、⑥病院・長期療養施設勤務者、訪問看護等に従事している方、⑦以上の方と同居されている方です。また接種が勧められる方は、①寮などで共同生活されている方、②託児所・保育園・幼稚園・学校等に通っている方、③公共サービス従事者、④妊娠されている方などです。

一口メモ

マイジェクター

マイジェクターはインスリン自己注射用の注射器です。通常のワクチン用の針よりさらに細く、疼痛も軽減されます。接種時に泣かない子も多く、お母さんの中には本当にワクチンを接種したのでしょうかと尋ねる方もいらっしゃるほどです。ただワクチンを注入するときは痛いようです。この注射器は針と注射器が一体のため、針が外れる事故も少なく、薬液量の正確な調整も容易です。OCFCではインフルエンザ以外にOPI(日本産ワクチン)の接種に用いています。

■栄養相談外来開始します。

試験的に隔週土曜日に行なっていた栄養相談を12月より毎週土曜日午後1時より3時まで行います。お一人10分から20分かけて、ご相談いたします。経験豊かな栄養師(関典子さん)による保健所や病院の栄養相談とは一歩ちがった、きめこまかいアドバイスがうけられます。乳幼児栄養相談(離乳食についても)は無料です。生活習慣病については保険の適用内で行ないます。予約制です。どうぞご利用下さい。



僕に名前をつけてください。

僕はOCFCのロゴマークのうさちゃんドクターです。現在顔だけのロゴと全身像の2種類があります。僕に可愛いニックネームを付けてください。貴方のお名前とニックネームを記載して投書箱にお入れください。採用者には記念品を差し上げます。